

第2回登別市立図書館移転推進委員会 議事録

開催概要

日時 令和8年6月24日(水)18:00～19:30

場所 市民会館2階中ホール

1 開会

委員長が進行

2 委員会の成立報告

半数以上の委員の出席を確認

3 振り返り

別紙資料により教育部図書館が説明

(主な説明内容)

(1) 前回の移転推進委員会が出された意見を集約

ア 環境・バリアフリーについて

イ 交流・居場所づくりについて

ウ 蔵書とスペースのバランスについて

エ 静寂性の確保とエリア分けについて

(2) 今後の協議の進め方について

過去の検討委員会の意見や市民・学生アンケートの結果を整理した資料があると議論しやすいのではないかと。

⇒別紙資料により共有

(3) 整備検討委員会等での協議された課題等の確認

ア 現図書館の課題点の解消と、バリアフリーの実現

イ 明るさや、室内環境への配慮や専門家による設計、避難経路などの安全性の確保

ウ 郷土資料の保全

⇒上記に加え、アーニスへ商業施設として共用スペースの整備について要望する必要があるのではないかという意見を含め、協議していきたい。

【委員 A】

○整備検討委員会での協議された内容について

- ・エレベーターの音声ガイド
- ・点字表示
- ・引き戸若しくは自動ドアの設置
- ・正面玄関からエレベーターまでまた、正面玄関から階段まで誘導ブロックを設置
- ・警告ブロックの設置
- ・図書館入口に点字の表示
- ・図書館の受付カウンターを車いす利用者にも配慮した高さに
- ・避難通路の確保
- ・フードコートのリニューアル
- ・静寂性を保つための防音(二重ドアなど)
- ・防臭
- ・会話や遊びが許容される空間

⇒バリアフリーについてエレベーターだけでなく、様々な障がいに対応した設備の設置について協議した。

今後の協議の参考にしてもらいたい。

4 協議

(1)コンセプトについて

委員長より、素案(事前配布)の説明

(主な説明内容)

- ・ 振り返りでまとめた4つの意見については、過去に協議された内容と比べても、「求めるべき機能」「確保すべき機能」について大きな差はない。
 - ・ 協議にあたり、たたき台として素案を作成したので、本日の協議のベースとして確認してもらいたい。
- ⇒ 読み込む時間を設定し内容の確認
- ・ コンセプトとして「つながる図書館」を例示
 - ・ 素案を基に、修正、加筆を行い、今後プロポーザルで選ばれた事業者に共有したい。

【委員 B】

- ・コンセプト案については、委員長提示の資料で問題ない。
- ・バリアフリーについては、視覚、聴覚、肢体、発達障がい、それらの多様な障がいをもった方たちも楽しく安心して図書館に来られるような環境を望む。

【委員G】

- ・コンセプト案については問題ない。
- ・移転後の図書館については、現図書館の課題を解決したものであることが重要。
- ・図書館以外の目的に来られた方も見たくるように図書館にしたい。

【委員 A】

- ・図書館全体としてのコンセプトについて、平成30年に作成された、「登別市立図書館のめざすもの」をベースに考えた方がいいのではないかと。
- ・「登別市立図書館のめざすもの」に記載されている5つの柱に則って、3つのコンセプトとしてまとめた案を提案したい。
 - 1 インクルーシブな交流拠点(身近に利用できる図書館、「居場所」の提供)
 - 2 新しい可能性の創造拠点、学びと成長を育む創造拠点(自己実現を助ける図書館、「出番」を創出・提供)
 - 3 地域文化のアーカイブ拠点(「地域づくり」)
- ・最低限必要と考える5つのスペースについて
 - 1 閲覧スペース
 - 2 学習スペース
 - 3 交流と共に作る共創スペース
 - 4 図書館ネットワーク支援スペース
 - 5 事務管理スペース

【委員C】

- ・防音の観点から中央にある吹き抜けをなくすことはできるのか。
⇒想定していない。

【委員長】

- ・防音については重要だと考えるが、設備や広さ等については予算も含め考える必要がある。
- ・車いすなどが通れる広さを考えると、書架スペースが限られてしまうことから、ゾーニング等バランスを考える必要がある。

【委員E】

- ・現在、図書館の移転予定スペースは確保されるのか。
- ⇒一部未定だが、営業中の店舗の移転等を含めて、スペースが確保できる予定である。(アーニス関係者)
- ・移転後に向けて耐荷重をあげる工事等を実施する予定はあるか。
- ⇒工事は想定していない。(教育部次長)

【委員J】

- ・耐震工事をする予定はあるか。
- ⇒アーニスは新耐震基準の建物であることから耐震工事をする予定はない。(教育部次長)
- ・市民が安全に利用できるように、PRするなど細かな説明をしてもらいたい。

【委員I】

- ・図書館は静かな場所、周りへ配慮が必要な場所なので小さい子どもがいる家庭では、利用を躊躇してしまうことがある。
- ・静かに穏やかに過ごすスペースと、読み聞かせをしたり、お互いに会話をしたり、本を楽しむスペースが確保されることで、ユニバーサルデザインされた図書館づくりに繋がるのではないか。

【委員A】

- ・登別における図書館の本は約15万冊あり、限られた面積の中では開架する蔵書数によってスペースが決まると思われる。
- ・2025年の全国の市区立図書館の統計では、全体の53.9%が開架図書となっている。(登別市 48%)
- ・法律等により開架する本の冊数に決まりはないが、日本図書館協会の基準を参考にとすると開架冊数の数値基準値は約60%になる。
- ・数値基準値60%は現状を鑑みると難しいので、全国の平均値と数値基準値の間である約57%を目指すのはどうか。
- ・登別市の要覧を参考に、最新の数字を利用すると約8万冊が開架の基準となるのではないか。

- ・一般図書と児童書を合わせた数を8万冊とした場合、その割合も考える必要があり、一般的には、7(一般図書):3(児童書)だが、登別市 5(一般図書):5(児童書)程度まで児童書の割合が多い。

【委員E】

- ・アンケートの結果から、本を読む場所、学習席などの広さの方が、本の種類や数、本棚の数よりも要望が多く、学習スペースや子どものためのスペースに重点を置くことで蔵書が減ってしまう。また、室蘭のきらんのような施設を求めているのではないか。
- ・職員スペースも、更衣室、事務室、給湯室、配本室、本などの荷物を保管する場所、会議室、研修室など必要なスペースが多々あるため、ゾーニングが難しい。

【委員H】

- ・きらんと同じようなものを作る必要はないと思う。
- ・静かで本を読んだり、調べたりする空間、人が集まったり、声に出して本を読んだり読み聞かせができる空間などゾーンをしっかりと作ることで、基本的な問題は解決するのではないか。また、開架冊数が減ったとしても、様々な利用目的で来館者が増えるのではないか。

【委員E】

- ・アーニス分館はバリアフリーを目的として設置されたが、自動ドアや避難経路などの整備が十分とは言えない。
- ・バリアフリーは車いす利用者だけでなく、視覚・聴覚障がい者や知的・発達障がいのある方など、多様な利用者への配慮が必要であり、高齢者や子どもを含め誰もが利用しやすい施設であることが重要である。また、豊かな言葉を育むためにも十分な蔵書を備えた図書館を整備し、バリアフリーの充実を図ってほしい。

【委員長】

- ・図書館内部の整備に加え、アーニスと協議しながら館内のバリアフリー化についても検討を進めたい。

- ・委員からの意見は、今後の事業者選定や意見書作成の軸として反映していく。

(2)「機能とエリア」の検討について

- ・未実施

5 その他

- ・プロポーザルの実施状況について図書館長より報告
- ・令和8年7月15日(水)実施予定のプレゼンテーションヒアリングについて
⇒ヒアリングには、委員長、副委員長及び委員1名の参加を予定しており、委員1名については自薦により選出
1名の参加希望があったことからヒアリング参加者が決定された。
- ・次回の開催日程について(令和8年7月29日水曜日)

閉会

19時30分 閉会

以上